

九州情報大学学術・教育研究所報

KLIS Academic and Educational Research Institute Report

第9号 令和7(2025)年3月

◆目次

・令和6(2024)年度学術・教育研究所活動報告	…所長 丹羽 崇之 …1
・経営情報・データサイエンス研究センター活動報告	…センター長 荒平 高章 …2
・地域情報・生涯学習センター活動報告	…センター長 秋吉 浩志 …3
・国際交流センター活動報告	…センター長 クリス・フリン…7
・学習支援センター活動報告	…センター長 合田 和正 …8

◆令和6(2024)年度学術・教育研究所活動報告

所長 丹羽 崇之(教授)

学術・教育研究所は、本学の実教育および研究の発展に資するため、①学術研究部門に、経営情報・データサイエンスセンターおよび地域情報・生涯学習センター、②教育学習部門に、国際交流センターおよび学習支援センターをおき、学内外の多様なフィールドで活動している。また、これらの成果を公表し、地域・社会に還元するため、③論集編集部門に、研究論集編集小委員会および所報編集小委員会をおいている。

各センターの活動報告については、それぞれのセンター長に委ね、ここでは、本年度の取り組みとして、(1) 即時オープンアクセスへの対応、(2) 研究倫理審査委員会の設置について、触れておきたい。

(1) 即時オープンアクセスへの対応について

公的資金によって生み出された研究成果は、国民に広く還元されるべきものである。近年、その流通はグローバルな学術出版社等の市場支配に置かれ、購読料や論文の掲載公開料の高騰が進んでいる。そのため、学術雑誌の購読、論文の出版にあたり、大学、研究者等の費用負担が増大し、研究競争力の低下の恐れが生じている。これらを背景として、統合イノベーション戦略推進会議は、「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」を決定し(令和6年2月16日)、2025年度以降に公募される競争的研究費を受けた研究者は、査読付き学術論文および根拠データを学術雑誌に掲載後、即時に機関リポジトリ等に掲載することを義務づけた。

即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費制度は、

日本学術振興会(JSPS)	科学研究費助成事業
科学技術振興機構(JST)	戦略的創造研究推進事業
日本医療研究開発機構(AMED)	競争的研究費
科学技術振興機構(JST)	創発的研究支援事業

である。

本学では、「九州情報大学オープンアクセスポリシー」(令和6年10月1日学長裁定)を定めるとともに、「九州情報大学学術情報リポジトリ運用指針」(平成27年6月11日学長裁定)を改訂し、対応を進めているところである。

(2) 研究倫理審査委員会の設置

人を対象とする研究のように、倫理的な問題が生じる可能性がある研究については、適用される法令・指針に準拠して、倫理的、社会的及び科学的合理性の観点から適正に実施されるかどうかを審査することが求められるようになってきている。そこで、本学に研究倫理審査委員会を設置することになり、「九州情報大学研究倫理審査委員会規程」（令和 6 年 7 月 11 日学長裁定）を定めて、本学所属研究者等の申請に基づいて、倫理的観点から審査を行うことになった。

委員会は、学長が指名する自然科学の専門家、人文・社会科学の専門家を含む 5 人以上の委員から構成され、委員長が統括する。なお、委員会の事務は研究所で処理することになっている。

審査の対象となるのは、人を対象とする研究（個人又は集団を対象として、思想、心身の状態、行動、環境、経歴等の情報の提供を受け、又はデータの収集を行なって実施する研究）および倫理的な問題が生じる可能性がある研究である。

研究者として研究倫理を求められるのは当然であるが、審査の質を高めるため、委員の側も各種の委員研修の受講等により、研鑽を重ねていかなければならない。(VoR)

・経営情報・データサイエンス研究センター活動報告

センター長 荒平 高章（准教授）

1. 経営情報・データサイエンス研究センターについて

令和 5 年度より、経営情報・データサイエンス研究センターが新たに立ち上がった。近年の高等教育機関において、データサイエンスの素養・技術を大学生に身につけさせ、社会に輩出することが求められている。その一方で、データサイエンスは文理問わず様々な分野で利活用ができ、その応用範囲は広く、教育にとどまらず研究でも同様のことが言える。したがって、本センターは、「経営情報」、「データサイエンス」をキーワードとした研究活動を本学が主体となり推進していくための役割を担うことを目指す。

（九州情報大学学術・教育研究所報第 8 号 令和 6（2024）年 3 月より抜粋）

2. 令和 6 年度の活動報告

本年度は、昨年度の本センターの立ち上げに伴い、基盤整備が主な活動であった。前年度に引き続き、本年度の活動内容は以下の通りである。

- 1) データ分析等に係る協力企業先の調査
- 2) 研究センターの活動内容の検討

1) に関しては、キャリアデザインセンター（CDC）に協力企業の情報提供等を依頼し、また学内の講義等で訪問された企業の情報等を調査した。また、高等学校において DX ハイスクール認定校の調査を実施し、本学との高大連携に向けた活動を模索した。

2) に関しては、研究センターとしての活動内容について 1) の状況と照らしつつ検討を続けている。

3. 令和 7 年度の活動計画

来年度の活動計画であるが、引き続きセンターの設備等を含めた基盤整備を継続し、実際に外部企業や大学・高等学校等も含めた協力体制の確立、さらには共同研究等へつなげていきたい。また、他大学の研究者や企業の方々と交えた研究会や交流会の計画・実施、

学内の研究者による研究会や交流会、共同研究等のネットワーク構築なども視野に入れた活動を展開していきたい。さらに、各センターとの連携も行っていく予定である。(VoR)

・地域情報・生涯学習センター活動報告

センター長 秋吉 浩志（准教授）

昨年度より生涯学習センターと地域情報センターが合併し、「地域情報・生涯教育センター」として始動した。本センターの活動は、地域の情報発信や情報教育への支援、生涯教育の推進などを主な目的としている。下記で述べるとおり、各種事業の企画・実施・支援をととして、本学の研究・教育の質的な向上を図るとともに、本学が蓄積する研究・教育の成果を幅広く地域の教育文化の発展向上のために還元することにより、ささやかながら社会に貢献してきた。以下において、令和6年度に行った事業やその運営に携わった本学教員・学生の状況についてそれぞれ報告することにした。

1. 公開講座の企画・開催の概要

令和6年度は、情報系5講座、語学系4講座、自然科学系2講座、スポーツ系2の計13の公開講座を企画した。なお、情報系の講座を見直し、初心者向けの「はじめてのパソコン①基礎・インターネット編」と「ワードとエクセルで年賀状を作ろう！！」の講座を廃止し、情報系の新たな流れを取り入れた、生成AIに関する講座「文章生成AIを使ってショートショート小説を書いてみよう」を開設した。これらの講座の日数は13回（15日間）、受講者総数は延べ113名（159名）であった（括弧は昨年度の実績）。この数字から分かるように、本年度のセンターによる公開講座が前年度よりも減少した。これは下表で示すとおり、2講座の悪天候中止の影響が大きかったと言えよう。これらの講座は、毎年参加人数が多いが野外で実施するため、天候の影響を受けやすいのが難点である。以下に示した表が令和6年度の公開講座の状況である。

令和6年度4月～9月 公開講座の実施・開講の一覧

種別	講座名	開催日		時間	受講者数	講師	学生サポート人数
語学	「英検」面接試験 対策講座 (1)-①	6月22日	土	10:00-12:00	4	教員	-
	「英検」面接試験 対策講座 (1)-②	6月29日	土	10:00-12:00	4	教員	-
科学	夏のほしぞら観察会	9月18日	水	19:30-21:30	17	教員2	5
情報	文章生成AIを使ってショートショート小説を書いてみよう	6月22日	土	13:00～15:00	8	教員	-
	はじめてのパソコン① ～ワード前編	9月17日	火	10:00-12:00	13	学生	8
	はじめてのパソコン② ～ワード後編	9月17日	火	10:00-12:00	14	学生	9
	はじめてのパソコン③ ～エクセル前編	9月20日	金	10:00-12:00	14	学生	10
	はじめてのパソコン④ ～エクセル後編	9月20日	金	13:00-15:00	14	学生	9

令和6年度10月～3月 公開講座の実施・開講の一覧

種別	講座名	開催日		時間	受講者数	講師	学生サポート人数
語学	「英検」面接試験 対策講座 (2)-①	10月26日	土	10:00-12:00	6	教員	－
	「英検」面接試験 対策講座 (2)-②	11月2日	土	10:00-12:00	6	教員	－
科学	冬のほしぞら観察会	令和7年2月5日	水	19:00-21:00	中止	教員2	5
スポーツ	かけっこ教室	11月2日	土	10:00-11:00	中止	職員 (陸上部監督)	3
		11月2日	土	13:00-14:00	13		4

2. 学生講師・学生サポーター が情報系講座を担当

本センターの情報系の公開講座は、積年にわたって本学学生が講師を務めてきた。またほぼすべての講座において、学生が受講者のサポートや講師の補助を担当している。

講師やサポートを担当する学生は、テキストの作成から講座の運営まで携わっている。これらの学生の多くが教職課程履修者であるため、教育実習の模擬体験ともなっている。

たとえばパソコン系講座の場合、受講者1～2名に対して1名の学生サポーターが付いて、随時懇切丁寧な支援を行うため、受講者の理解度は高い。講座後のアンケートでも、多くの受講者が満足していることが分かった。

問題点としては、講師・サポーター役の学生を確保することが徐々に困難になってきていることである。したがって学生に対してさらなる誘因となるものが必要とされている。

3. 教職員による公開講座の新設・増設

次に本学の教職員が講師を務める公開講座について報告する。語学系の「『英検』面接対策講座」は昨年度同様に前後期それぞれ2回開講した。講師はクリス・フリン教授が担当し、実際の面接試験を想定した個別指導が重点的になされた。受講者は中学生・高校生が多かったが、終了後のアンケートによれば概ね好評だった。

「ほしぞら観察会」については、センター長秋吉が昨年に続いて担当した。本学の天文サークル「だざいふ星空研究会」の学生がサポーターとして参加しており、プレゼンテーションや参加者の案内などを行った。令和6年度は表のとおり9月18日と令和7年2月5日に開催を企画した。9月18日の当日はあいにく天候が悪化したが、幸いなことに開催時刻直前になって回復し、初めてスケジュールどおりに観察会を行うことができた。昨年度同様、数多くの親子連れの参加があり、夏休みのひとときを星空談義で賑わうことができた。その一方、2月の観察会は、雪による悪天候のため、参加者の安全確保を優先し、中止となり残念であった。来年度も年2回の開催を予定しており、さらなる充実した観察会となるよう準備していく。

スポーツ部門の「かけっこ教室」は昨年度に初めて開催された公開講座である。本年度は本学学園祭11月2日に午前の部と午後の部の2回開催することが計画された。悪天候のため午前の部は中止することになったが、午後の部は開催することができた。受講者は小学生が多かったが、本学の陸上部監督が講師を務め、学生の陸上部員がサポートを行って、楽しく走ることや正しく走るコツなどを受講者と一緒に体を動かしながら説明した。

そもそも公開講座の目的が、「本学が蓄積する研究・教育の成果を幅広く地域の教育文化の発展向上のために還元」することを踏まえるならば、今後本学教職員による公開講座を充実、発展させていくことは継続的課題である。引き続き来年度も積極的な活動を行っていききたい。

4. 水城小学校「パソコンクラブ」へのサポート学生の派遣

太宰府市立水城小学校の「パソコンクラブ」(月曜日 6 時間目) への学生サポーターの派遣は、太宰府市教育委員会生涯学習課(当時)の要請により、平成 25(2013)年から実施しており、本年度で 12 年目となった。

サポーターとして参加した学生達が立案・実施の主体となって実際の運営を担当しているが、そうした学生は教職課程の履修者が多い。そのためこの派遣事業は、結果として彼らの教育実習の事前事後学習としての意味も含んでいる。

本年度、水城小学校パソコンクラブへサポーターとして派遣された学生は、延べ 10 人(5 回派遣)であった。学生サポーターの活動内容は、昨年までは小学校向け学習ソフト「ジャストスマイル」やお絵かきソフト「ロイロノート」を使った初歩的な内容の実習を支援することであった。しかしながら小学生側の情報リテラシーが年々向上しており、またより時宜に合ったテーマを取り上げてほしいとの要望もあり、内容を改変して、いままでよりも高いスキルが要求される、プログラミングや AI リテラシーに関する実習を行った。

実習形態としては、全体進行を担当する学生と個別の児童をサポートする学生とに役割を分担し、児童一人ひとりに寄り添うサポートを行った。来年度の課題は、本年度同様に学生サポーターの確保、そして活動内容のさらなる充実・創意工夫である。

令和 6 年度 水城小学校パソコンクラブへのサポート状況

日程	活動内容	児童数 (昨年度)	学生数	日程	活動内容	児童数 (昨年度)	学生数
1 6/10	タイピング練習	27 (32)	2 (3)	4 12/9	ロイロノート で写真撮影	26 (20)	2 (2)
2 10/7	プログラミング 準備	26 (20)	1 (1)	5 2/25	AI を体験しよう	26 (20)	3 (0)
3 11/5	プログラミング	26 (20)	2 (2)				
延べ合計						131 (228)	10 (12)

(括弧は昨年度の実績)

5. 甑島「アイランドキャンパス」の取り組み

平成 24(2012)年から実施してきた鹿児島県薩摩川内市甑島をフィールドとした地域交流・地域実践の試み(甑島「アイランドキャンパス」プロジェクト)は、令和 6 年度で 13 年目を迎えるはずであった。例年 9 月末に行われる瀬々野浦地区の運動会への本学学生の参加や現地の産業の振興に尽力している方々から体験談を伺うことなどを主な内容としていた。

ところが事情により、本年度の「アイランドキャンパス」の実施は見送ることとなり、来

年度に再開を期すことになった。他方で令和 6 年 10 月 26・27 日に開催された本学の学園祭において、学生と甕島の住民との共同プロジェクトとして「甕島フェア」を開催することができた。これは甕島の特産品タカエビ、キビナゴなどの販売を通して、甕島を多くの方々に知ってもらう取り組みである。このフェアが、来年度以降の「アイランドキャンパス」プロジェクトの再開とさらなる発展に繋がっていくための契機となるものとして考えている。

6. e スポーツ体験会の本格的開催

特記すべきは、本年度、九州地区の各大学に先駆けて本格的な e スポーツ施設「九州情報大学 e スポーツアリーナ」が概ね完成したことである。今後は、このアリーナを拠点にして国内外の e スポーツ愛好者との交流を推進していくことになる。

ところで昨年度本学に学生の部活動サークルとして e スポーツ同好会が誕生し、本年度から e スポーツ部へと昇格した。その活動の一環として、地域に対する e スポーツの普及と支援を積極的に行っている。下表が令和 6 年度の活動概況である。

まず 7 月 31 日に太宰府市にホームステイをしたベトナム人小学生と日本人小学生の交流イベントの支援活動として、e スポーツ体験会を行った。次に市内各地区老人会からの依頼で、「シルバー層向け e スポーツ体験会」を 10 月 20 日と 2 月 16 日（令和 7 年）に開催した。そもそも令和 5 年度より太宰府市と共同主催で、各年代層向け（高校生、シルバー層、親子など）の e スポーツ体験会を開催してきた。本年度は、このような昨年度の活動が徐々に市民に認識され、定着しつつある感を受ける。

そして 12 月 14 日には、市内の各大学の学生サークルによるイベント「太宰府キャンパスフェスタ」に e スポーツ部として参加した。さらには、「九州情報大学 e スポーツアリーナ」の‘完成’の記念イベントとして、「第 1 回太宰府市国際交流 e スポーツサミット」を開催した。これは太宰府市の依頼によるもので、韓国の扶余電子高等学校、太宰府市の筑紫台高校、そして本学の e スポーツ部の学生による本格的な e スポーツ交流戦が行われた。

最後の「第 1 回太宰府市 e スポーツ国際交流サミット」は、韓国と日本をインターネット上に繋いで行われたゲームによる交流戦である。日本の大学と海外の教育機関が連携してなされたこのような企画は、まだ日本においては稀有な試みかもしれない。このたびの交流戦の結果としては、韓国の高校が優位のまますべて終了した。まずはこの「e スポーツ国際交流サミット」を端緒にして、今後は海外との交流も推進していきたい。

令和6年度 主なeスポーツ関連イベント

※おおよその人数

イベント名	期日	場所	参加者数	サポーター数	主催、共催など
第1回 eスポーツ国際交流会 ベトナム 体験会	2024年7月31日(水)	太宰府市役所 4F401 会議室	ベトナムの小学生11名 太宰府市内の選抜された小学生7名	九州情報大学4名(教員2名) 太宰府高校6名	大宰府市
第2回シルバー層向けeスポーツ体験会 (第1回は令和5年度に開催)	2024年10月20日(日)	大宰府市梅香苑公民館	地域の参加者60名	九州情報大学8名(教員3名) 太宰府高校6名(教員2名)	地域情報・生涯教育センター
太宰府キャンパスフェスタ	2024年12月14日(土)	大宰府市いきいき情報センター	参加者200名程度※	13名(教員3名)	大宰府市
第3回シルバー層向けeスポーツ体験会	2025年2月16日(日)	太宰府市東ヶ丘公民館	地域の参加者31名	九州情報大学8名(教員3名)	地域情報・生涯教育センター
第1回太宰府市eスポーツ国際交流サミット	2025年3月25日(火)	九州情報大学 大宰府キャンパス	筑紫台高校17名(うち教員1名) 韓国 扶余電子高等学校14名(うち教員4名)	九州情報大学9名(教員3名)	学術・教育研究所 主管：地域情報・生涯教育センター

7. その他

以上のほかに本センターの活動として、太宰府市商工会の情報発信事業「だざいふなび」への支援活動があげられる。しかしコロナ禍を機に一旦2020年度(令和4年)に活動を休止しており、センター長秋吉が理事会に継続的に参加するのみで、残念ながら本年度も学生が参加する活動までには至っていない。

8. まとめ

令和6年度の地域情報・生涯学習センターの活動は、コロナ禍での活動自粛から全面的に回復し、さらに活性化したと言えよう。

公開講座では、従来からのワープロやエクセルなどパソコンの基本的な操作に関わるものから、AI やプログラミングさらにはeスポーツへと、より新しく多角的な分野に内容が広がってきている。こうした傾向は今後も継続していくであろう。それとともに各種の SNS を有効に活用しながら、地域情報・生涯教育センターの諸活動を積極的に情報発信していきたい。(VoR)

・国際交流センター活動報告

センター長 クリス・フリン（教授）

国際交流センターは、地域の文化向上の一翼を担うべく、太宰府市の国際交流事業を中心に積極的に活動している。以下に令和6年度の活動概況を報告する。

○太宰府市国際交流協会が主催する事業

- ・「フレンズベルのつどい」への参加

令和6年6月23日（日） 教員1名、学生3名

（留学生や在留外国人による交流、市長や県議会議員との懇談など）

- ・「世界文化体験講座（中華料理教室）」への参加

令和6年7月6日（土） 教員1名、学生1名

（太宰府市民と太宰府の留学生と一緒に中華料理を作る。）

- ・「国際理解講座」における講演

令和6年9月28日（土） 教員1名、学生5名、卒業生1名

（フリンによる講演「南半球からみた逆さまな日本」）

- ・「太宰府市民政庁まつり」への参加

令和6年10月5日（土） 教員1名、学生3名

（市民に対する国際交流協会の活動の啓発、留学生との交流）

- ・「太宰府西小学校餅つき大会」への参加

令和6年11月9日（土） 教員1名、学生1名

（小学生と留学生と一緒に日本の伝統行事である餅つきを体験）

- ・「日本文化体験講座（大分県中津市への日帰りバスツアー）」への参加

令和6年11月9日（土） 教員1名、学生3名

（一般市民と留学生が日本の文化を体験）

- ・「国際理解講座～国際交流サロン～」への参加

令和6年12月23日（土） 教員1名、学生5名、卒業生1名

（フリンによる講演「オーストラリアのクリスマスについて」）

（各国のクリスマスイベントについて紹介、体験）

- ・「留学生フォーラム（就活応援セミナー）」への参加

令和7年2月8日（土） 教員1名、学生9名、卒業生1名

（本学卒業生による就職活動の体験についての講演など）

以上のほかにセンター長フリンが、太宰府市国際交流協会の理事会に3回、運営委員会に11回出席した。

○学内イベント

「5か国の料理を食べながらクリスマスパーティー」の開催

令和6年12月11日（水） 教職員若干名、留学生・日本人学生およそ70名

（日本・中国・韓国・ベトナム・ネパール料理を学生が提供、クイズ等のイベント）

本学は近年ますます留学生が増加する傾向にあるが、それとともに国際交流センターが地域の国際化のために果たす役割について倍旧の期待が寄せられていくように思われる。また、留学生と日本人学生の交流と相互理解の橋渡し役としても一層の貢献が求められている。これらのニーズに応えるべく、今後の活動をさらに充実させていきたい。（VoR）

・学習支援センター活動報告

センター長 合田 和正（准教授）

学習支援センターの目的は、基礎総合科目・専門教育科目の履修や学習に係る相談と支援、資格・検定試験の相談と学習支援にある。以前の2組織、基礎学習支援センターと資格学習支援センターとの改組・統合を経て、両方の役割を担うこととなった。

本年度は改組後の2年目として前年の活動内容、前2組織の活動内容の踏襲を継続した。

第1に、以前と同様に「学習支援室」の開設を試みたが相談を受ける上級生学生の応募に苦労して、結局開設できなかった。これは今後の課題である。開設予定時間帯については、以前からを踏襲して、前期後期とも、開講期間中の毎週月曜・木曜（週2回）の正午から13時までの1時間の運用を計画していた。しかしながら、この時間帯、以前と同様に1年生の必修講義、2年生の必修講義を考慮した結果として上級生の応募がかなわなかったため、他の時間帯や業務内容について再検討が必要である。学習相談室の継続課題である認知度の低さは改善できず、複数の教員で、それぞれ担当科目・ゼミなどで相談を受ける上級生の募集の呼びかけを行ったが、応募にいたらず、一本釣りの何人かの上級生に声をかけたが、応募にいたらなかった。

第2に、以前からの業務継承として、学内共同研究において、学生の自主学習環境改善の手段の1つとして、Google Formsを用いた小テストの作成について研究を今年度も実施した。具体的には、Google Formsの小テストの出力となるGoogle Spreadsheetのワークシートに散在する結果の一部について、半自動的に集計するプログラムを試作、検証した。

第3に、新しい試みとして学会で発表した。具体的には、センター長合田と本学教員1名による合同で、日本情報科教育学会の九州・中国・四国支部第23回研究会(3/22土、山口大学教育学部にて)で、「生成AIを用いた局限コーパスの構築に向けてー多様な学習者を意識しての検討ー」というタイトルで報告した。留学生を含む学習困難者への対応は本学以外でも多くの教育機関で課題となっている。本発表では、そのような問題意識に基づいて、試案について述べただけであったが、参加者の多くに関心をもっていただけたようである。

来年度以降も引き続き、「学習相談室」の継続および認知向上につとめ、2年目となる新カリキュラムの「スタディ・スキル」「ラーニングリテラシー」との連携を具体的に推進し、初年次を中心とした学習相談、より具体的な資格・検定試験の相談と学習支援を実施、改善を図り、学内全体の底上げに寄与したい。(VoR)

◆原稿募集

教員各位の教育・研究活動に関する原稿を募集します。たとえば教育・研究報告、学会報告、書評、文献紹介、翻訳などです。『研究論集』に掲載するほどの分量はないが、論文執筆のための準備作業として書き留めておきたいこと、日頃の教育・研究に関連して思うことなどでも結構です。ただし『研究論集』との違いを明確にするため論文は掲載しません。なお、原稿の作成・提出にあたっては、「九州情報大学研究論集編集・発行基準」「九州情報大学研究論集執筆・投稿要領」を遵守してください。詳細は学術・教育研究所までお問い合わせください。

九州情報大学学術・教育研究所報 第9号

発行日 令和7(2025)年 3 月 31 日

発行所 九州情報大学学術・教育研究所報編集小委員会

〒818-0117 福岡県太宰府市宰府六丁目 3-1

TEL 092-928-4000

※掲載された原稿の著作権は本学に帰属します。
無断引用を禁止します。